

諸外国での状況

◇ アメリカ・カナダ

- ◇ MRAの実施体制や手順書、実例、マネージメントとの関係に関する理論、全てを先導

◇ ヨーロッパ、豪NZ

- ◇ 確率論的MRAの理論開発(オランダ、イギリス)、実施中のMRAはアメリカ・カナダの手法と同様、マネージメントとの実際の連携には遅れ

◇ ラテンアメリカ、アジア

- ◇ 熱心に研修会開催、海外の専門家招聘、FAO/WHOのMRAに協力(タイ)、JICAを利用したプロジェクト(マレーシア)、北京におけるILSI/FAO/WHOワークショップ、厚生科研費での講習会(日本・山本班への韓国、中国からの参加)

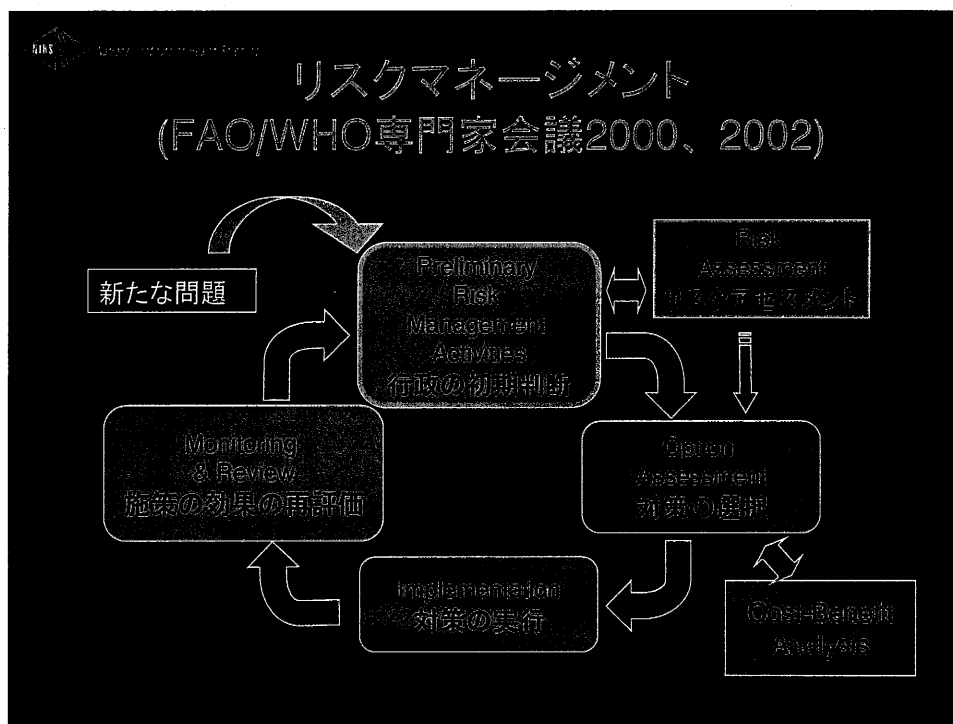
微生物学的なリスクアナリシスにおける リスクアセスメントの位置づけ

➤ 特にリスクマネージメントとの関係

アメリカ先導の理論ではあるが、ヨーロッパ各国の専門家もともに議論したFAO/WHO専門家会議でのまとめ

Codex食品衛生部会(CCFH)での取り扱い

- 関連3ワーキンググループが議論中(それぞれのリーディングカントリーは、ドイツ、フランス、NZ)



行政の初期活動(primary risk management activities)としてマネージャーが行なうべきこと

- 食品衛生上の問題の探知、認識
- どう取り扱うべきかの初期判断
 - 様子を見る、既存の法規制で対応、緊急措置対応、微生物学的リスクアセスメントの実施
- 微生物学的リスクアセスメントが必要と判断された場合
 - リスクプロファイルの作成
 - リスクマネジメントからの具体的な検討依頼項目の設定(目的、比較したい対策案など)
 - リスクアセスメントチームの編成、召集
 - リスクアセスメントポリシーの提示

微生物学的リスクアセスメントが 必要とされる場合 リスクマネジメントの初期判断における基準 (FAO/WHO専門家会議から)

- 定量的基準値設定のための根拠の提示
- 海外の基準との同等性の評価
- フードチェーンにおける対策の提示
- データニーズの指摘

Preliminary Risk Management Activities

- 食品安全委員会として、この部分の機能も担うのであれば、

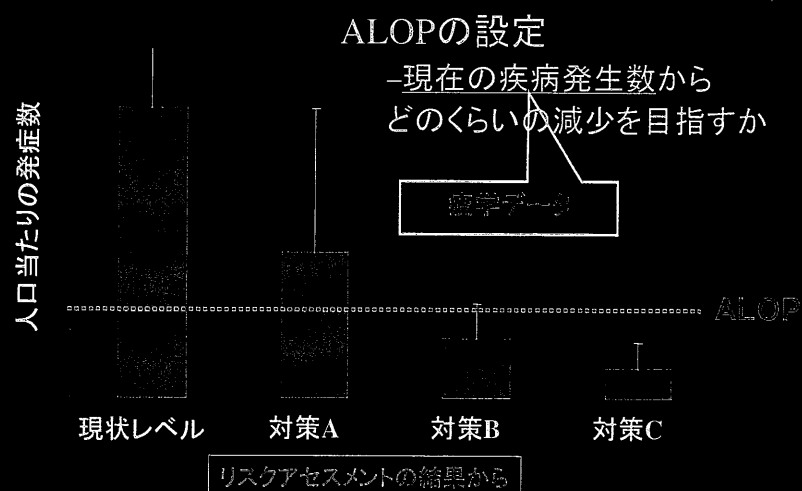


- 各問題の取り扱い方、優先順位付けに関する指針作りが必要
- CCFHでのワーキンググループ(CCFHの活動に関するプライオリティを議論するWG)のディスカッションペーパーは一つのたたき台

リスクアセスメントの結果をリスク マネジメントにどう反映させるかの 一例: ALOP/FSO

- 食中毒発生減少の目標値の設定と
- その目標値を達成させるための、個々の規格基準の設定

ALOP (appropriate level of protection)の設定

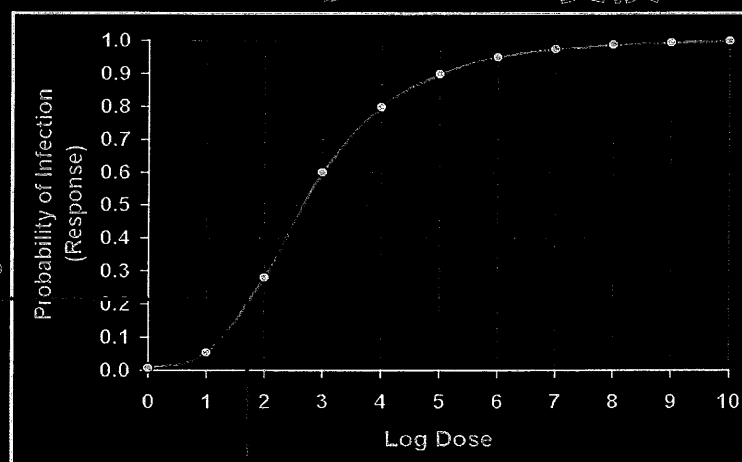


FSO (food safety objective)

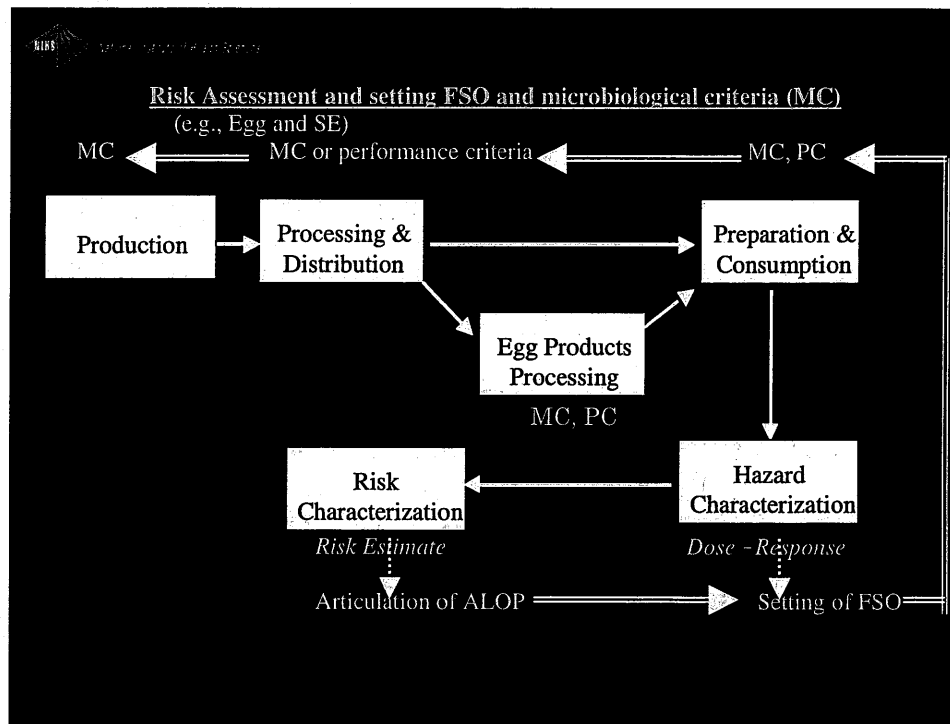
- The maximum frequency and/or concentration of a microbiological hazard in a food at the time of consumption that provides the appropriate level of protection (by ICMSF, in Report of the 34th Session of the Codex Committee on Food Hygiene, ALINORM 03/13)
- ALOPを微生物学的に検証可能な単位に変換したもの。
- 消費時点での危害微生物の存在頻度と菌数
- ALOPを満たす最大値
- でも、定義は未確定(現時点でCCFHに提案されているもの)

Dose-response curveを用いた ALOPからFSOへの変換

From
ALOP



FSO



今後必要とされること

- リスクマネジメント機関との十分なコミュニケーション
 - リスクアセスメントの実施には、リスクマネージャーの理解と、その上での緊密な連携が、終始必要
- 確率論的リスクアセスメントに関わる人材育成、他分野の専門家との協力
 - 海外専門講師の招聘、海外への派遣研修等の機会も利用し、特にモデラーの育成が急務

